

第19回葉山まちづくり展

実行委員会始動!

「第19回葉山まちづくり展」は2019年5月17日(金)〜19日(日)に開催されること決定。

前回は飲食ブースが初登場し、ゆつたりとランチを食べて、当葉山まちづくり協会の登録団体等の活動を見ていただきました。その中で、来場者同士の交流が活発に行われました。

またホールでは、登録団体に加え、小中学生の発表や一般参加団体による空手の演武、ジャズ演奏など分野も年齢層も幅広く披露され、たくさんのご来場をいただきました。

第19回の実行委員会もスタートしました。みなさまのご参加・ご来場をお待ちしております。



前回の葉山まちづくり展の様子

1月〜3月のイベント

葉山・山楽会主催の
町民ハイキング

日時 3月2日(土)
集合 京浜急行・新逗子駅南口
集合時間 午前9時
コース
新逗子駅→三浦海岸駅→バス→剣崎→
剣崎灯台→毘沙門天入口→毘沙門海岸
(昼食)→宮川町→向ヶ崎→城ヶ島大橋
→城ヶ島公園→城ヶ島海洋センター→
三崎バス停(解散15時20分頃)
持ち物 弁当、飲料水、帽子
公募対象 小学3年生以上で健康な人
参加費 300円(保険・資料代)
申込締切 2月24日(日)
申込み 葉山・山楽会(伊東)
046・878・7431
歩きやすい運動靴でご参加ください。
前日午後5時、横浜気象台の情報で県
南部の降水確率50%以上の表示が出た
場合は中止します。

さらに座 テーマは「映画」

日時 2月8日(金) 14時
会場 葉山まちづくり館
(葉山町立図書館2階)
自称「素人のもの好き」藤波勝次郎さんによる古今東西の映画の話題。特に小津安二郎にまつわる話は必聴です。

上山口ぐるっと梅見散歩

日時 3月2日(土) 10時〜12時半
集合 バス停「新善光寺」10時
コース
新善光寺→水源地橋→清寿苑→間門橋
→鎌地の湧水→正吟の庚申塔→道中橋
(旧道)→三島神社→新善光寺(解散)
コースは変更になる場合があります。
参加費 500円(保険・資料代)
定員 20人(先着順)
持ち物 飲み物、雨具、筆記用具
歩きやすい服装と靴
主催 三浦半島まるごと博物館連絡会
担当団体
(特非)環境ファミリー葉山
(特非)オーシャンファミリー
海洋自然体験センター、葉山の
環境を守る会、教育自然学研究
会、すし環境会議まちなみ緑
の創造部会
申込み・問合せ を明記
Eメールが電話で
の上、下記まで。締切り2月
21日(水)
「上山口ぐるっと梅見散歩」
住所、氏名、電話番号、Eメール
複数での参加は全員の氏名を記入

・Eメール nonakaya@jcom.home.ne.jp
・電話 090-2312-2257(野中)

お正月情報

年越しの大抜い(おおはらい)	12月31日 15時
森戸神社	12月31日
除夜の鐘	《葉山》 新善光寺(上山口)12月31日(月) 23時半 光徳寺(堀内) 12月31日(月) 23時45分 《逗子》 妙光寺(久木) 12月31日(月) 23時40分 延命寺(逗子) 12月31日(月) 23時45分 海宝院(沼間) 12月31日(月) 23時45分 神武寺(沼間) 1月1日(火) 0時
御奉射祭(おびしやさい)	御霊神社 1月7日(月) 11時
どんど焼き	三ヶ浦海岸 1月12日(土) 9時 諏訪町海岸 1月12日(土) 9時 一色海岸 1月12日(土) 9時〜11時 荒天13日に延期 笠指小浜海岸 1月13日(日) 10時点火 長者ヶ崎海岸 1月12日(土) 10時 雨天13日に延期 御霊神社 1月14日(月) 祝 10時 森戸神社 1月14日(月) 祝 8時 眞名瀬海岸 1月14日(月) 祝 7時〜10時半頃まで 本圓寺前木古庭公園 1月20日(日) 13時点火

しめ縄のこと



「伝統文化の由来と意味を知る」

お正月飾りといえば「しめ縄」と「しめ飾り」。神社のお社には一年中張られ、各家庭では正月、華やかに装飾されたしめ飾りが玄関先に飾られる。慣れ親しんだ風習だがその由来や意味は何なのだろう。探ってみると、「しめ飾り」の奥深さがわかり日本文化の魅力が感じられる。

由来 しめ縄は、そこが神様をお祀りするのにふさわしい神聖な場所であることを示すもので、その由来は古くから伝わる神話が元になっている。

『あるとき天照大神(アマテラスオノミコト)が、弟の須左之男命(スサノオノミコト)が悪さばかりすることに怒って天の岩戸に隠れてしまった。天照大神は太陽の神様なので世の中が真っ暗に

なってしまう、困った八百万の神様が岩戸の前で酒を酌み交わし、踊り出した。その騒ぎに天照大神がそと岩屋から身を乗り出した時に神様たちが岩戸を閉め、再び岩屋に逃げ込まないようにと、岩戸をしめ縄で縛ってしまった。その縄が「この先には進めない」といういわば境界を表すようになってしめ縄が誕生したといわれる。

作り 多くのしめ縄は稲わらで作られる葉山町内の多くの神社やお稲荷さんでも地元産の稲わらを使ったしめ縄を張っている。普段使う日用品などの縄は右へねじる「右廻り(反時計回り)」だが、しめ縄は神様にかかる特別なもののなで左へねじる「左廻り(時計回り)」になっている。これは、神道では左を神聖、右を日常と考えるので、神様から見たときに元の太い部分が左になるように飾るのである。



森山神社(一色)



2018年12月25日発行 第34号
認定NPO法人葉山まちづくり協会
〒240-0112 三浦郡葉山町堀内1874
町立図書館2階
TEL&FAX 046-876-0421
e-mail: o ce@hayama-npo.or.jp

葉山まちづくり協会 検索

意味 しめ縄としめ飾りは似ているが意味は異なる。しめ縄は、神様が宿

る場所を示すもので一般家庭では神棚に飾る。しめ飾りは、しめ縄に縁起物で飾りをつけて、家々に一年の実りと幸せをもたらす新年の神様「年神様」をお迎えする玄関に飾る。玄関用のしめ飾りは、北・東日本では縦長の「玉飾り」、西・南日本ではこぼろの様な横長の「こぼろ注連」が一般的。玉飾りより細いしめ縄に紙垂やゆずり葉をつけた「輪飾り」は、水を清める意味があるので、台所やトイレなど水まわりに飾る。



玉飾り 謹賀新年
紙垂(五穀豊穡) 前垂れ(神聖・清浄)
こぼろ注連 だいたい(代々栄える) 裏白(清らかな心) ゆずりは(子孫繁栄) 譲葉

特色 あまり知られていないが、縁起物に華やかに飾られたしめ飾りのもとの形は多種多様で興味深い。地域によって異なる場合が多く、その土地の風土や文化によるのだらう。九州地方では鶴、山陰地方では亀といった動物の形がある。山形県では米俵の形が

あり、雪深い土地で米の豊作を願うことなのだろう。ユニークなものでは長野県のお椀形のしめ飾り。みかんなど年神様へのお供物を入れるのだらう。形や飾り方は様々だが、どれも人々の願いや思いをのせて大切に作られていることに違いはない。



手作りの輪飾り

伝承 時代の移り変わりとともに失われつつあるしめ飾り文化が多いなか、しめ縄・しめ飾りを飾る風習は現代的に形や飾りを変えながらもしっかりと継承されている。12月になると各地で稲わらを使ったしめ縄作りが始まる。公民館などで体験教室が開かれることも多く、お飾りにまつわる歴史や目的・意味を知り、日本文化の奥深さを再認識する良い機会になる。

何気なく行っていたお正月準備も今までは違った気持ちで行えるのだらう。苦手な大掃除も年神様をお迎えするための大事な準備と思って、今年は清々しい気持ちで取り組みたい。



森戸神社(堀内)



二子山山系自然保護協議会調べ
(2018年10月現在)

「何かしたいと思う人間に、葉山の人はやさしい。アドバイスをくれたり、『それならあの人が力になってくれる』と次から次へと人を紹介してくれる。新しい住人にも分け隔てなく、むしろみんな応援してくれそうです。アイス作りに辿り着いたのはひょんなことからでしたが、葉山でできた豊かな人のつながりから生まれたものだと思います」

「何かしたいと思う人間に、葉山の人はやさしい。アドバイスをくれたり、『それならあの人が力になってくれる』と次から次へと人を紹介してくれる。新しい住人にも分け隔てなく、むしろみんな応援してくれそうです。アイス作りに辿り着いたのはひょんなことからでしたが、葉山でできた豊かな人のつながりから生まれたものだと思います」

イノシシってこんな生き物!

- ・体長 120～130cm
- ・体重 50～110kg
- ・体高 60～80cm
- ・雑食性。タケノコやドングリ、ミミズ、耕作放棄地の根茎なども好物。
- ・春または秋に2～8頭、平均4.5頭を出産。
- ・助走なしで120cmまで飛び越えられる。
- ・器用で力のある鼻先は50cmの深さまで掘り掘り返したり70kgのものを押し上げる力も。
- ・嗅覚は犬より鋭いとも言われている。
- ・走る速度は時速50kmほど。
- ・記憶力と模倣学習能力に優れている。
- ・夜行動することが多いが本来は昼行性。危険がなければ(人がいなければ)昼間も活動する。

頭も運動神経もいい!
昼も夜も行動する!

イノシシに出会わないために

- ・廃棄する農作物、お弁当など食べ物を野外に放置しないこと。形が悪かったり虫食いのある野菜もきちんと収穫しましょう。
- ・ヤブ刈りに参加しよう! 家や農地の周り、近所のできる範囲でヤブ刈りをし、その状態を維持し、隠れ場や餌場をなくすようにしましょう。
- ・これらは地域全体で実施するとより高い効果を発揮します。声を掛け合い、協力して行いましょう。

イノシシに出会ったら

- ・絶対に追いかけてはいけません。
- ・走る、手を振り上げるなどの急な動きは避け、落ち着いて向かい合ったままゆっくりと後退しましょう。出会ったのが子どもでも、近くに必ず母親がいます。注意してその場を離れるようにしましょう。
- ・イノシシは本来臆病な性格ですが、個体差もあり、混乱したり興奮すると襲ってくることもあります。シュー、カッカッ、クチャクチャなどの音を発していたら、威嚇音ですので特に注意しましょう。
- ・どうしても逃げ場がないときは木に登るなど、イノシシの視界から離れるようにしましょう。

絶対に人間の食べ物を与えてはいけません。記憶力、模倣学習能力に優れているので、人間の食べ物を奪う、ゴミを漁るなどの行動に繋がります。遭遇の機会が増えれば、人身被害も起こりやすくなります。

「イノシシ」、葉山町にとって、とても身近な存在であることをご存知ですか? 葉山町ではじめてイノシシの存在が確認されたのは2013年。当時5頭の推定生息数が現在は100頭を越え、住宅地近くや民家の庭先、小学校の校庭から数十メートルのところでも目撃されるようになりました。

イノシシは強い繁殖力を持ち、いったん生息するとそこから追いつくのはほぼ不可能。山だけでなく、町中に現れるようになるのも時間の問題とも言われ、遭遇の機会が増え、人身被害などが起こりやすくなるのが懸念されています。

「これから、いかにイノシシと共存していくかを考える必要があります」と話すのは、二子山山系自然保護協議会・イノシシ被害対策会議プロジェクトの小菅さん。

「イノシシを人里に慣れさせず、生活圏を分けることが唯一の共存方法です。イノシシの好む隠れ場所はヤブや草むら。その中で、子育てをしたり休んだり、人間の観察などを行います。そして安全を確認したら、ヤブから出て食べ物を探して農作物を荒らしたりします。そのため、同協議会では定期的にヤブ刈りを行う活動をしています」

ヤブ刈りをした後の土地は様々なプロジェクトや団体に貸出し、田んぼや畑、子どもたちの遊び場として活用しており、こうして、イノシシにとって住みにくい場を増やすことで、イノシシが人里に下りてくるのを防いでいるそうです。

里山とは、里の暮らしと山の暮らしが共存する空間とも考えられます。葉山の里山を守るために、まずは2019年、イノシシのことを知り、対策活動に参加してみませんか。

葉山の山にも... 亥年にイノシシのことを知ろう!

二子山山系自然保護協議会の活動より

2019年の干支は「亥(イ)」。この「イノシシ」、葉山町にとって、とても身近な存在であることをご存知ですか? 葉山町ではじめてイノシシの存在が確認されたのは2013年。当時5頭の推定生息数が現在は100頭を越え、住宅地近くや民家の庭先、小学校の校庭から数十メートルのところでも目撃されるようになりました。

イノシシは強い繁殖力を持ち、いったん生息するとそこから追いつくのはほぼ不可能。山だけでなく、町中に現れるようになるのも時間の問題とも言われ、遭遇の機会が増え、人身被害などが起こりやすくなるのが懸念されています。

「これから、いかにイノシシと共存していくかを考える必要があります」と話すのは、二子山山系自然保護協議会・イノシシ被害対策会議プロジェクトの小菅さん。

「イノシシを人里に慣れさせず、生活圏を分けることが唯一の共存方法です。イノシシの好む隠れ場所はヤブや草むら。その中で、子育てをしたり休んだり、人間の観察などを行います。そして安全を確認したら、ヤブから出て食べ物を探して農作物を荒らしたりします。そのため、同協議会では定期的にヤブ刈りを行う活動をしています」

ヤブ刈りをした後の土地は様々なプロジェクトや団体に貸出し、田んぼや畑、子どもたちの遊び場として活用しており、こうして、イノシシにとって住みにくい場を増やすことで、イノシシが人里に下りてくるのを防いでいるそうです。

里山とは、里の暮らしと山の暮らしが共存する空間とも考えられます。葉山の里山を守るために、まずは2019年、イノシシのことを知り、対策活動に参加してみませんか。

冷たいアイスに葉山の温かさをこめて

新しい住人がつくった町の味「葉山アイス」

山口冨希さん



「何かしたいと思う人間に、葉山の人はやさしい。アドバイスをくれたり、『それならあの人が力になってくれる』と次から次へと人を紹介してくれる。新しい住人にも分け隔てなく、むしろみんな応援してくれそうです。アイス作りに辿り着いたのはひょんなことからでしたが、葉山でできた豊かな人のつながりから生まれたものだと思います」

「葉山の魅力は美しい景観より何より人の温かさだと考える。『葉山アイス』は味にもパッケージにもそんな思いを込めたもの。今度はこのアイスを通じ、食べた人が葉山に興味を持ち、それが新たな出会いを生むなど、人と人をつなげていければと願っている。

代々の住民も、最近移り住んだ人も、町を訪れる人々も、葉山の魅力を再発見できる。そんな新しい町の味である。」

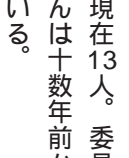
「同時に衰退していく葉山の現状を何とかしたいという思いも強くなった。それには一人でも多くの人に葉山の素晴らしさを知ってもらいたい。そのための手段として、人に喜びを与えられる何かを葉山から発信したいと考えたという。」

そこから葉山の米を使ったアイスにたどり着いたのは、さまざまな町民との出会いによる。

葉山町赤十字奉仕団

まちづくり協会に新登録!

八十島益良さん



「人の命を尊重し、苦しんでいる者は敵味方の区別なく救わなければならない」

後にノーベル平和賞第1号となるアンリ・デュナンが戦場の悲惨さを体験し、提唱した言葉により生まれたのが赤十字。150年以上隔てた現在、ネットワークは191の国と地域に広がっている。

そんな赤十字の理念に基づき、日本全国の市区町村で組織された、地域赤十字奉仕団の一つが、葉山町赤十字奉仕団だ。日本赤十字社神奈川県支部葉山町分団(葉山町福祉課)に属し、連携しながら独自のボランティア活動を行う。救急法の普及と、災害における減災を大きな目標として掲げ、毎年、救急法の講習や葉山マラソン・駅伝での救護活動、各町内会や団体に依頼される防災訓練の参加などに積極的に取り組んでいる。

メンバーは現在13人。委員長を務める八十島益良さんは十数年前からこの活動にかかわっている。

「当時、教師をしていた高校で青少年赤十字の部活顧問を引き受け、そこで懸命に取り組む生徒たちに心を打たれたんです。私も地元のために何かできないかと思ったのが参加したきっかけです」

そこで出会ったのが、若者に負けず熱い信念を持った大人たち。そんな仲間と切磋琢磨しながら活動を続けてきた。「全員、倒れている人を見たら何かしなければいけない人たち。そのためスキルもここで学んでいます」

何かあれば真っ先に自分が動くというメンバー。その行動力と町の福祉課との連携が活動の軸だったが、災害が多発する昨今、今後は町内のほかのボランティア団体との協力も大切だと八十島さんは考える。2018年にはまちづくり協会に登録。社協主催の福祉まつりにも初参加した。横のつながりを増やすためだ。

もう一つ、八十島さんが一層力を入れたいというのが地域の人々との交流だ。「福祉まつりでは子供も興味を持ってくれたし、『自分は障がい者だが、それでも何かできることがあれば』と口をださる方もいた」と、嬉しそうに語る八十島さん。有事で自分たちの活動をいかにするために、より多くの人と信頼をつなげることが、それも葉山町赤十字奉仕団の大きな目標である。

命を尊ぶ赤十字の思想は、地域を守るという強い意志となり、今、葉山の地に根づいている。

冷たいアイスに葉山の温かさをこめて

新しい住人がつくった町の味「葉山アイス」

山口冨希さん



「何かしたいと思う人間に、葉山の人はやさしい。アドバイスをくれたり、『それならあの人が力になってくれる』と次から次へと人を紹介してくれる。新しい住人にも分け隔てなく、むしろみんな応援してくれそうです。アイス作りに辿り着いたのはひょんなことからでしたが、葉山でできた豊かな人のつながりから生まれたものだと思います」

「葉山の魅力は美しい景観より何より人の温かさだと考える。『葉山アイス』は味にもパッケージにもそんな思いを込めたもの。今度はこのアイスを通じ、食べた人が葉山に興味を持ち、それが新たな出会いを生むなど、人と人をつなげていければと願っている。

代々の住民も、最近移り住んだ人も、町を訪れる人々も、葉山の魅力を再発見できる。そんな新しい町の味である。」

葉山町赤十字奉仕団

まちづくり協会に新登録!

八十島益良さん



「人の命を尊重し、苦しんでいる者は敵味方の区別なく救わなければならない」

後にノーベル平和賞第1号となるアンリ・デュナンが戦場の悲惨さを体験し、提唱した言葉により生まれたのが赤十字。150年以上隔てた現在、ネットワークは191の国と地域に広がっている。

そんな赤十字の理念に基づき、日本全国の市区町村で組織された、地域赤十字奉仕団の一つが、葉山町赤十字奉仕団だ。日本赤十字社神奈川県支部葉山町分団(葉山町福祉課)に属し、連携しながら独自のボランティア活動を行う。救急法の普及と、災害における減災を大きな目標として掲げ、毎年、救急法の講習や葉山マラソン・駅伝での救護活動、各町内会や団体に依頼される防災訓練の参加などに積極的に取り組んでいる。

メンバーは現在13人。委員長を務める八十島益良さんは十数年前からこの活動にかかわっている。

「当時、教師をしていた高校で青少年赤十字の部活顧問を引き受け、そこで懸命に取り組む生徒たちに心を打たれたんです。私も地元のために何かできないかと思ったのが参加したきっかけです」

そこで出会ったのが、若者に負けず熱い信念を持った大人たち。そんな仲間と切磋琢磨しながら活動を続けてきた。「全員、倒れている人を見たら何かしなければいけない人たち。そのためスキルもここで学んでいます」

何かあれば真っ先に自分が動くというメンバー。その行動力と町の福祉課との連携が活動の軸だったが、災害が多発する昨今、今後は町内のほかのボランティア団体との協力も大切だと八十島さんは考える。2018年にはまちづくり協会に登録。社協主催の福祉まつりにも初参加した。横のつながりを増やすためだ。

もう一つ、八十島さんが一層力を入れたいというのが地域の人々との交流だ。「福祉まつりでは子供も興味を持ってくれたし、『自分は障がい者だが、それでも何かできることがあれば』と口をださる方もいた」と、嬉しそうに語る八十島さん。有事で自分たちの活動をいかにするために、より多くの人と信頼をつなげることが、それも葉山町赤十字奉仕団の大きな目標である。

命を尊ぶ赤十字の思想は、地域を守るという強い意志となり、今、葉山の地に根づいている。